福南だより

校訓『勤勉 友愛 感謝』

第 5 号
令和7年9月1日発行
堺市立福泉南中学校
校長 中島 寛

咲けないときこそ、根っこが大切！

～当たり前に対して慢心せず、感謝の気持ちで接する大切さを知る～

2学期が始まり、1週間が経ちました。みなさん、調子はどうですか？9月に入りましたが、まだまだ残暑の厳しい日が続くと思います。「早寝、早起き、朝ごはん」を守りながら、徐々に身体を慣らし、体調と気持ちを整えていってください。私も、今夏に体調（体重！）管理してきましたので、2学期も引き続き頑張りたいと思います！

先日、始業式のあいさつで「感謝することの大切さ」について触れました。人は自分の人生が順調であると、どうしても恵まれた環境や支えてくれている人への感謝が薄れがちになってしまふことがあります。何でも当たり前であることに、自分の感覚がマヒして「自分の力が凄から結果が出ているのだ！」と勘違いしがちです。もちろん成功の要素の中には、自分の努力も含まれているので、自己肯定感を上げて自分に自信をつけることは良いことなのですが、また別の角度から見たときには「自分を支えてくれている人たちの存在」を決して忘れてはいけません。人生というのは、いつでもうまくいってばかりではありません。むしろ、うまくいかない状況のほうが多いのではないのでしょうか（特に自分はそう感じるのですが・・・）。そんなときには、「何でも当たり前でできていたのに！なんで!？」とイライラして腹を立てるのではなく、「当たり前でできていたことは、ありがたいことだったんだな～」と、一度立ち止まって深呼吸してほしいと思います。人生の教訓を表す言葉の一つに、「置かれた場所で咲く」というメッセージがあります。それは、「自分が置かれている環境を仕方が無いと諦めるのではなく、自分からよい方向へ環境を変えていく人であって欲しい。それが自分らしく咲くということ」という意味の言葉です。しかし、この言葉には続きがあります。「生きるうえでは、咲ける時ばかりではない。そうした時は、根を太く強く成長させて欲しい。根が丈夫なら必ずいつか咲ける日がくる」というものです。「花を支える枝、枝を支える幹、幹を支える根、根は見え

ねえんだなあ」命の詩人と呼ばれる相田みつおさんも、こんな言葉を残されています。思い通りにならないことが多い、こんな時だからこそ、折れないで、腐らないで、大地に強く根を張る存在であって欲しい。いつか、大輪の花を咲かせるその時まで・・・「風雪に耐えただけ、土の中に根が張るんだなあ」、これも相田さんからのエールです。

さて、長丁場の2学期です。どんな状況に直面しても、「周りへの感謝」とともに、この言葉を思い出しながら、福南生らしく胸を張って邁進してくれることを願っています。

9月の主な行事

- 2日(火) 3年大阪府チャレンジテスト
- 4日(木) 後期生徒会立会演説会・投票（6限）
- 9日(火) 1年スマホ安全教室（4限）
- 11日(木) 第1回3年学力診断テスト、1,2年夏休み宿題テスト、ノークラブデー
- 20日(土) PTA 実行委員会
- 25日(木) 中間テスト（～26日）
- 29日(月) 全校集会（認証式）、専門委員会（前期最終まとめ）

☆ 明鏡止水 ☆

始業式では、登校してきた生徒の様子から、我々教職員一同はまた改めて元気ももらいました。夏期休業中には、補充授業で会った3年生や、部活動で登校する生徒たちの姿に、少しずつ成長していく様子を感じながら2学期を迎えることを楽しみにしていました。

さて、2学期は1年の中で一番長い期間を過ごすこととなりますが、その分新たなこととの出会いや経験する事柄も多くなり、成長の要素が1学期に比べて格段に多くなります。本校の生徒全員が、この2学期に素晴らしい体験を通じて、心身ともに大きく成長してくれることを心から願っています。子どもたちが、スケールが大きく懐の深い人間に成長してくれることを願って止みません。ご家庭の皆様におかれましても、引き続き学校運営各方面において、何かとご協力をお願いすることになりますが、1学期同様ご支援・ご協力賜りますよう、どうぞよろしくお願いいたします。